

牛の妊娠期後半の疾病(胎膜水腫)事例調査の結果について

○平素より、種雄牛選抜事業に御協力いただき、厚く御礼申し上げます

さて、平成26年7月～8月にかけて、県内で牛の妊娠期後半に胎膜水腫により胎子や母牛が死亡する事例が発生したため、発生事例調査を行いました。その調査結果は次のとおりとなりましたので、お知らせします。

○調査を実施した結果、平成21年度から平成26年10月までの発症事例数は、黒毛和種が、38件、ホルスタイン種が8件でした。

【年次別発生事例数】

区 分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	計
黒毛和種	5	5	4	4	9	11	38
ホルスタイン種	3	2			1	2	8

○発症事例のうち、黒毛和種については、胎子のみの死亡例数が21件、母子ともに死亡した例数が17件、ホルスタイン種については、胎子のみの死亡例数が3件、母子ともに死亡した例数が5件でした。

【母牛、胎子死亡の内訳】

区 分	胎子のみの死亡	母子ともに死亡	計
黒毛和種	21	17	38
ホルスタイン種	3	5	8

○発症した胎子の父は以下のとおりでした。

【胎子の父・頭数】

隆娘	星乃郷	茂福花	花糸安	その他	計
13	8	5	3	9	38

※その他:系安茂、平系勝、浜花、福娘、安茂秀、茂弘桜、茂重桜、茂花国、金照
 ※隆娘については、同一雌牛から採卵した受精卵の胎子が2頭含まれる。

○発症した母牛38頭中35頭が「茂重桜」を血統に有しており、統計学的にも「茂重桜」の関与が認められました。

【「茂重桜」を血統に有する母牛・頭数】

「茂重桜」を血統に有するもの				血統に無いもの
母の父	母方祖父	母方曾祖父	計	
26	5	4	35	3

○島根県としましては、今後、胎膜水腫と診断された牛のサンプルを採取し、遺伝的要因の検査をDNA解析により行うとともに、県外の関係機関等も構成員とする検討委員会を設置して、引き続き遺伝子レベルでの原因究明や今後の対応について、検証・検討していきます。

なお、検討委員会のなかで、統計学的な分析により、「茂重桜」と血縁を有する県有種雄牛においても遺伝的な関与が認められないものについては、交配を控える種雄牛から随時解除していきます。

○大変御心配をお掛けしますが、御協力をよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

○島根県畜産技術センター育種改良部 ○島根県農畜産振興課

TEL 0854-42-1035

TEL 0852-22-5133

島根県